

三つの力が総合的に育っていく中で培われていく協同性とは・・・

アプローチ期の後期の大きな行事に「生活発表会」がある。運動会と同様、どのようなことをやりたいか、幼児たちと相談し、内容（創作の場合はストーリーも含む）を考えていく。そして劇的な活動の中に、今まで遊びの中で経験してきたことを盛り込んでいく。

小道具（人形・ペープサート）・大道具、身に付けるお面・衣装作り等の絵画製作、ナレーター役や登場人物の役、効果音の係、OHP機器の操作等、それぞれが自分で選択した役割を、責任をもって担う。

また、劇中には楽器やリズム表現、運動会後にできるようになった一輪車・竹馬・こま回しなどを披露する場面で一人一人が力を発揮したり、友達と気持ちをそろえて歌や器楽合奏をしたりして“成功させよう”と励まし合いながら、みんなでやり遂げた充実感や達成感を味わう。

このように、協同性は個の中でも、集団の中でも、自発性と絡みながら育まれていく。

幼児期の終わりまでに育てたい幼児の具体的な姿

- ◇ いろいろな友達と積極的にかかわり、友達の思いや考えなどを感じながら行動する。
- ◇ 相手に分かるように伝えたり、相手の気持ちを察して自分の思いの出し方を考えたり、我慢したり、気持ちを切り替えたりしながら、分かり合う。
- ◇ クラスの様々な仲間とかかわりを通じて互いのよさを分かり合い、楽しみながら一緒に遊びを進めていく。
- ◇ クラス皆で共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして、実現に向けて力を発揮しやり遂げる。



小学校における育ちのつながり・教師が大切にしていること

小学校では、幼稚園・保育所等で培われた協同性を、次のような場面で発揮していくことになる。

- ◆ 毎日の生活を円滑にするために学級の係を子どもたちと考え、係を決める。「どのような係が必要か」「どのような決め方がよいか」などを話し合い、実際に係を決める。そして、決まった係の人たちが集まり、係としてどのようなことをするのか、仕事をどのように分担するのかを考え、協力して係活動を進める。
- ◆ 国語「おみせやさんごっこをしよう」では、「どんなお店にするか」「どんな商品を並べるか」「お客さんに喜んでもらうためにはどうしたらよいか」などのことを友達と相談しながら、皆に来てもらえるお店屋さんをつくり、お店屋さんごっこを行う。
- ◆ 生活「秋と遊ぼう」で、ドングリごまやじろべいを作ったり、コースを作って転がしたりしてドングリや秋のものを使って遊ぶ計画を立てる。何を担当するのかクラスの分担を決め、子ども同士で話し合い、教え合いながら、担当のものを作る。最後に、担当の子どもが中心になって、作ったものを使ってクラス全体で遊ぶ。
- ◆ 掃除が終わったところで反省を班で行う。今日はきちんと掃除ができたのか、悪いところはなかったかと掃除の時間をみんなで振り返る。そして、明日は何をがんばったらよいのかを考え、明日の目当てをもつ。

3 小学校や地域・家庭と連携した取組を工夫しよう

■ 小学校との交流を生かした実践例 ■

児童との交流活動を通して、小学校への期待を膨らませよう！

○ 連携の目的（ねらいと内容）

◆ 幼児は…◆

- 小学校生活に、安心感や期待感をもつ。
 - ・ 児童に憧れの気持ちをもったり、小学校生活に期待をもったりする。
 - ・ 小学校の教室や校舎・校庭の様子、学校生活の過ごし方を知る。

◆ 1年生は…◆

- 1年生である自覚や自信をもって幼児にかかわり、満足感や達成感を味わう。
 - ・ 自分の成長に気付く。
 - ・ 思いやりの気持ちをもって幼児にかかわろうとする。

実践の展開 — 生活科 「ようこそ！秋の〇くみランドへ」 11月～12月

① 活動前の意見交換

11月上旬～中旬

小学校へ幼児が出かける数日前に、保育者と小学校教師とで打合せの機会を設けた。

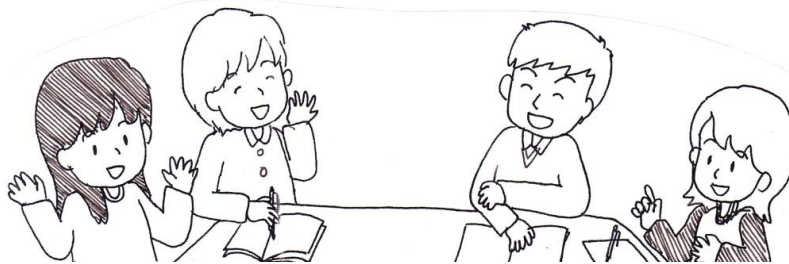
✦それぞれのねらいの確認

幼児には・・・

- ・ 秋の自然物を使った遊びや工作に興味をもって、1年生の話を聞きながら一緒に遊ぶことを楽しませたい。
- ・ 児童とのかかわりを通して、憧れの気持ちをもったり、小学校の先生に親しみを感じたりして、小学校生活を楽しみにするようにしたい。

児童には・・・

- ・ 友達と話し合っって新しい考えを出しながら取り組んできたことや友達と一緒にだからこそ成功したことの充実感を味わわせたい。
- ・ 幼児の気持ちに寄り添いながら説明をしたり、手伝ったりできるようにし、幼児が喜んでくれたことを感じて、満足感を味わわせたい。



✦保育者や小学校教師のかかわりで心掛けること

- ・ **保育者**は、児童がうまく遊びの説明ができたときは「上手に言えたね」「さすが1年生だね」と認めの声掛けをする。また、遊び方がうまく伝わらないときは「〇〇ってということ？」「△△なんだって」など、双方の橋渡しをする。

- ・ **小学校の教師**は、幼児が遊びを楽しんでいる様子に合わせて「面白いね」「楽しいね」と共感の声掛けをすることで、幼児が親しみをもったり、より楽しさが感じられたりするようにする。

2クラス65人の幼児を3クラスの教室に分け、各教室には担任や主任が付き添った。
Aクラスでは次のような遊びの場があった。

- やじろべえを組み立て揺らして遊ぶ
- ドングリなどでこまを作り、回る時間を比べて遊ぶ
- クリップの付いた落ち葉の魚を磁石の付いた釣りざおで釣る
- マツボックリを段ボールの穴に投げ入れる
- 転がり落ちてくるカプセルの中に入った秋の自然物をもらう
- マツボックリの輪投げをする
- ネックレスなど自然物を使った飾りを身に付けさせてもらう

クラスによって遊びの種類は異なるが、4・5人の児童が友達と考えて作った遊びを担当し、幼児に遊び方を説明したり、遊びの手助けをしてくれたりした。幼児は遊びに参加すると、カードにスタンプを押してもらったり、作品をお土産にもらったりした。

幼児は、仲良しの友達と連れ立って興味のある遊びから回り始めた。遊びのコーナーに行くと、児童が「これは魚釣りゲームです。この釣りざおで葉っぱの魚を釣ってください。魚はもらえます」と数人で声をそろえて遊び方を説明してくれた。

保育者が「上手に説明できたね」と言うと、照れくさそうに笑った。幼児は、緊張した面持ちで児童の説明を受けた後、釣りざおをもらい、魚釣りを始めた。魚が釣れると仲良しの友達と顔を見合わせてにっこりする。しばらくすると、「私は3匹、釣れたよ」「こっちの魚が釣りしたいな」などと話しながら釣りを楽しんだ。

ドングリのこま回しでは、こまが回る時間を競い合っ
て遊ぶが、すぐに止まってしまうことがあった。すると、
児童が「こっちのこまのほうがいいよ」と、別のこまで
再挑戦させてくれたり、「〇ちゃん、頑張れ」と応援して
くれたりした。



また、**小学校の教師**も「あわてないで回してごらん」
「今度は、さっきより長く回ったね」と声を掛けてくれた。

幼児は、応援してくれる児童や教師の顔を見上げ、にっこりと表情を和らげた。

遊びの場によっては、説明が分かりにくく幼児が動き出せない場面もあった。

保育者が「ここに入れたら、お土産がもらえるってこと？」と尋ね、児童に説明を加えてもらったり、「あと2回やれるんだって」と児童の説明を具体的な言葉にしたりした。

児童Bは、幼児の遊ぶ様子を見ながら「すごいね」「上手、上手」「あぁ、残念。もう1回」と、大きな声を掛けたり手をたたいたりして、幼児の気持ちに大いに共感をしてくれた。幼児たちも、**児童B**の声掛けをうれしく感じ、**児童B**の所属する遊びの場は、幼児が何度も参加していた。

きのうの輪っかは新聞紙で作ってあったよね

翌日以降の幼稚園では、児童と遊んだことをまねして、魚釣り遊びや輪投げ遊びなどを再現しようと「先生、ここにはめるの（クリップ）ある？」と材料を要求したり、「昨日の輪っかは、新聞紙で作ってあったよね」と同じように作ろうとしたりする姿が見られた。遊びに使う物ができると、友達を呼んで一緒に遊んでいた。

幼児Cはやじろべえを作ろうとし、「先生、ここここに穴があいてたよ」「もう少し長い棒だった」と昨日、見たこと・したことを思い出しながら作ろうとしていた。しかし、バランスをとるのが大変難しく、ゆらゆら揺れるやじろべえはなかなか作れなかった。それでも**幼児C**はあきらめようとせず、何個も作って試していた。

③ 活動後の意見交換

12月上旬

授業中・授業後の姿を知らせ合いながら、活動のねらいが達成できたか、保育者や小学校教師の声掛けが幼児・児童にどのように影響したのかなどについて話し合った。中でも、**児童B**の姿と**幼児C**の姿を取り上げ、次のように話し合った。

児童Bについて



保育者から



児童Bは、幼児一人一人にとってもよく声をかけていた。幼児は、自分の楽しさやうれしさに共感されることを喜び、それが活動の意欲につながる。また、共感してくれる人に出会うと、親しみをもち、安心してかかわりをもとうとする。幼児への共感はとても大切である。

児童Bは、“どうしたら、たくさん『ありがとう』と言ってもらえるか”を意識して、よく働きかけていた。児童なりに“喜んでもらえるように言葉をかけよう”と思い付いたのではないかな。思いやりの気持ちをもって相手にかかわることがどのようなことなのかを感じてくれていたらうれしい。

幼児期に協同して活動をする中で、友達と思いが重なってうれしかった経験やそれが自分たちのイメージを実現することにつながった経験、友達との思いのすれ違いからうまくいかなかった経験など、様々な経験を経験することが小学校での授業にもつながっていることを実感した。



小学校の教師から

幼児Cについて



保育者から



バランスの取れたやじろべえを作ることは幼児にとっては難しい。しかし、あきらめずに取り組む姿は、児童への憧れから生まれる“やってみたい”という気持ちの表れではないかと思う。

遊びが“楽しかった”とか“できた”などということも意欲につながるが、人とのかかわりを通して高まる意欲もあることが分かった。いろいろな人とのかかわりやつながりが人への思いやりの心を育てるだけでなく、物事に対する興味・関心や意欲を育てることにもつながっている。



小学校の教師から

実践における工夫のポイント

- ◆ 交流活動の事前・事後に、保育者と小学校の教師が情報交換をする場を設ける。
- ◆ 保育者は児童に、小学校の教師は幼児にそれぞれどのような援助をしてほしいのかを伝え合うことで、互いのねらい達成に向けて幼児・児童にかかわることができる。
- ◆ 授業後の情報交換では、幼児・児童を抽出して話し合うことで日頃の保育や授業の中で何を大切にしているか、また、子どもの姿をどう読み取るのかを伝え合い共通理解する。

幼児の学びにつながったこと

- ◆ 幼児は、交流活動を通して、児童が考え準備をしてくれた遊びを楽しむ中で、“こんな遊びができるんだ” “こんな物を使って作ったんだ” “数や速さを競って遊ぶと、もっと楽しくなるんだ” など、遊びを豊かにする方法を学ぶことができた。
- ◆ 児童がグループの友達と、声をそろえて遊び方を説明したり、役割を分担して対応してくれたりする様子を目の当たりにし、憧れや尊敬の気持ちをもつこともできた。小学校の教師に声を掛けられたことで親しみを感じ、自分から小学校の教師に分からないことを聞く幼児もいた。幼児は、小学校に出かけ、これらの経験をしたことで、就学への安心感・期待感を高めることができた。

■ 地域とのかかわりを生かした実践例 ■

地域の人との触れ合いを通して、優しさや思いやりを育もう！

◎ 連携の目的（ねらいと内容）

- 地域の高齢者との触れ合いを通して、思いや考えを伝える喜び、やりとりの楽しさや面白さを味わう。
- 相手の気持ちになって考え行動したり、自分のしたことを相手に喜んでもらったり認めてもらったりして、人の役に立つ喜びを感じる。

地域の高齢者の方との触れ合い交流会

7 月

＜七夕会＞ おじいちゃんやおばあちゃんに簡単な器楽合奏やお気に入りの歌や手遊びなどを見ていただいた。

「お寺の和尚さん」「げんこつやまのためきさん」では高齢者の方と手を触れ合ったり、じゃんけんを楽しんだりした。高齢者の方は幼児の歌や器楽を大変喜び、笑顔で大きな拍手を送ってくれた。「肩たたき」では、高齢者の方から“気持ちがいいよ”“上手だね”“ありがとうね”と声を掛けられ、ほめられたり、感謝されたりして、喜んでもらえたうれしさを感じた。

10 月

＜運動会＞ 2チームに分かれて一緒に玉入れをした。

幼児は、高齢者の方が手渡してくれる玉を受け取り、積極的にかごをめぐらして玉を投げ入れて楽しんだ。

2 月

＜ハロウィンお茶会＞ 年長児がお茶を出したり、チョコのレイをお土産に渡したりした。

幼児がお茶を差し出すと、とてもうれしそうに高齢者の方が「ありがとうございます」と丁寧にお礼を言ってくださり、少しはにかみながらも幼児もうれしそうだった。またチョコのレイ作りでは、それまでのかかわりから、幼児が“きっと喜んでくれる”と思いながら、渡すことを楽しみにしていた。渡したとき、高齢者の方から喜んでもらったことに満足そうな表情だった。

実践の展開

新年の交流会におじいちゃんおばあちゃんをお招きする 1 月

年長児中心の縦割りグループと老人クラブのメンバーが一つのグループとなり、ゲームや正月あそびのコーナー（菓子ばさみ・カルタ取り・みかんつかみ）を回って遊んだ。

おじいちゃん・おばあちゃんが上手に箸を使ってお菓子を挟む様子に幼児たちが「上手だね」と感心していると、「こうやって持つといいんだよ」と、箸を動かしたり手を添えたりして教えてくれた。

カルタ取りのコーナーでは、おじいちゃん・おばあちゃんが、絵札を幼児が取りやすいように、さりげなく教えてくれたり、目配せしながらゆっくり読み札を読んでもらったりした。幼児が札を取ると、ほほ笑んで喜んでくれた。

ものおじしないA児は、「みかんつかみをしよう」とおじいさんやグループの仲間に声をかけた。おじいさんはにこにこしてA児と手をつなぎ、みかんつかみコーナーへ行った。コーナーでは、A児は「僕が先にやってみるね」とみかん箱の中に手を入れた。

みかんを握って箱から出した手確かめるように見る。「あ～あ、3個だ～」と残念がるA児。「おじいちゃん、やってみて」とA児の誘いににこにこ顔で挑戦するおじいさん。おじいさんの手の動きを眺めるA児の表情は興味と期待に満ちた表情。

「わ～！」と幼児たちから歓声上がる。おじいさんの手には6個もみかんが乗っていた。

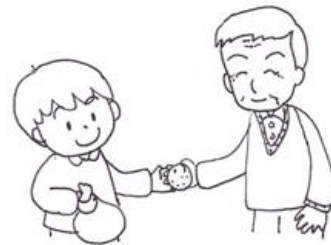
「おじいちゃん、すご～い」と驚いた表情のA児や周りの幼児たち。おじいさんが、みかんを全部A児の袋に入れようとする。A児は「あれ？」という表情でおじいさんを見てから、保育者の顔を見る。

「おじいちゃんは、Aちゃんが3個しか取れなかったから、どうぞって。Aちゃんどうする？」と、保育者が話すと、A児は「おじいちゃんが取ったみかんだからいいよ、おみやげにしてね」と話す。

おじいさんは、にこにこ顔で「どうぞ」とみかんを1個A児の袋に入れた。

「よかったね、おじいちゃんのみかんだね」と保育者がA児に小声で話す。

おじいさんの顔を見て「おじいちゃんありがとう」と顔を見合わせながらにっこり笑っていた二人だった。



実践における工夫のポイント

- ◆ 毎年4～5回継続的な交流を行うことで、高齢者の方と顔なじみになったり、幼児の名前を覚えて声を掛けてもらったりして親しみの気持ちが増すようにする。
- ◆ 交流当日までに、幼児が楽しみにしながら歌や器楽の練習をしたり、プレゼントを作ったりしていた様子を高齢者の方に伝える。
- ◆ おじいさんやおばあさんと1対1ではなく、縦割りのグループにしたり、コーナーを複数にしたりして選択できるようにすることで、自然に手をつないだり、楽しくやりとりしたりする。

幼児の学びにつながったこと

- ◆ 高齢者の方は、幼児をゆったりととても温かく受け止めてくれる。さりげない気配りや心遣いに高齢者の優しさや思いやりを感じ取る体験となった。この体験は地域で自分たちが温かく見守られていることを知り、高齢者の方と出会ったときに、親しみの気持ちを表したり、自分からかかわっていったりすることにつながっていった。
- ◆ 高齢者とのかかわりを通して『いろいろな人にほめてもらう心地よさ』『手を触った時の感触』や『相手に喜んでもらううれしさ』などを通して親しみをもつようになる体験は、回を重ねていくうちに、次第に相手のことを思い、相手のことを尊重する気持ちを育てていくことができた。

■ 家庭との連携を生かした実践例 ■

保護者と一緒に、幼児のやる気をアップしよう！

◎ 連携の目的（ねらいと内容）

- 保護者と一緒に取り組めるような活動を通して、幼児がその活動の楽しさを味わったり、うまくできるようになる喜びを感じたりすることができるようにする。
- 保護者と保育者とが、その幼児の頑張りやよいところを伝え合い、幼児の育ちを共に支える大切さを感じる。

実践の展開

「10できたでしょう、すごい？」

6月～8月

6月の家族参加日に、親子で一緒に製作や運動遊びなどをし、幼稚園の遊びや幼稚園での幼児たちの様子を見てもらう機会にしている。その中でも、全員の親子が触れ合っている運動遊びは好評で、「家でも子どもに何度も同じことをしたいと言われ、うれしかった」など、家庭でも取り組んでいるとの声もあった。

そこで、当日の運動遊びの内容を紹介する資料を家族参加日に配付することにした。

行事に参加した父親がその資料を家の中のA児がよく見るところに貼り、時間があるとA児を誘って遊ぶようになったと母親から話を聞いていた。

ある日、あまり運動が得意ではないA児が幼稚園で保育者に「ワニやるから、足持って」と言いに来た。保育者が「いいよ」とA児の足を持つと、A児は「1、2…」と10歩進み、「10できたでしょう」と誇らしげな表情で保育者に言った。

保育者も「わあ！できるようになったんだね」とA児を認め、一緒に喜び合った。

その日、迎えに来た母親にその話をすると「昨日初めて10までできたってお父さんに褒めてもらったんですよ。そうしたら何だかやる気になっちゃって」と、母親もうれしそうに話してくれた。



また、その後も、保育の中で取り組んでいるフープや鉄棒などが少しできるようになると、降園後の園庭開放で保護者に見せている姿があり、保育者もその様子と一緒に見ながら保育中の様子や保育者がどのようにかかわっているかを伝えるようにした。

そこで、夏休みには、縄やフープ、鉄棒などを使った運動遊びを紹介する資料を配付することにした。資料には、家庭での取組を2学期以降の保育に生かしていくために、頑張ったことや保護者の感想を書いてもらうスペースも設けた。

<保護者の感想（抜粋）>

- 少しこつがつかめてできるようになってきたら、自分から「今日はいつやる？」と積極的になり、その変化にびっくりしました。
- あまり運動が得意ではないのですが「見てて！」と得意げに見せてくれたり、一生懸命フープを回したりする姿がほほ笑ましかったです。



- うまくできなくて怒ったり泣いたりすることもありましたが、少しずつできるようになって、「やめずに頑張ってたね」と言えて良かったです。子どもと一緒にやることで、自分も子どもと同じ楽しさを味わうことができました。

2学期には、取り組んだことを子ども同士で紹介し合う機会をつくったところ、「すごい！Bちゃん、いっぱいできるようになったね」と友達を認めたり、自分も頑張ろうとしたりする姿が見られた。

実践における工夫のポイント

- ◆ 家族参加日に親子で触れ合う運動遊びの内容を紹介する資料を配布し、家庭でも引き続いて楽しめるように働きかける。
- ◆ 園庭開放で、固定遊具（鉄棒・逆上がり補助器等）が使いやすいように準備したり、園の遊具（フープ・竹馬等）を貸し出したりするなど、保護者が協力しやすいようにする。
- ◆ 保護者に対して、子どもが課題をこなしたりできるようになるだけでなく、やってみようとする気持ちや取り組む過程が大事であることを丁寧に伝えていく。

幼児の学びにつながったこと

- ◆ 幼児が家庭で保護者と一緒に取り組んだり、友達とできるようになったことを見せ合う中で、保護者や友達と触れ合ったり刺激し合ったりしながら取り組む楽しさやうれしさを味わい、更に“こんなこともできるようになりたい”“挑戦してみよう”など、意欲的に取り組むようになっていった。
- ◆ 幼児は、保護者や友達に支えられていると感じることで、初めてのことや自信のないこと、うまくできないこともやってみようとしたり、励まされ認められながら頑張っているうちに、いつかできるようになることを実感したりするようになった。

保護者の学びにつながったこと

- ◆ 子どもが自分から意欲的に取り組むには、保護者自身も我が子と一緒に楽しく取り組むことが効果的であることが分かった。
- ◆ 子どもがすぐにできるようにならなくても、我が子の力を信じ、成長の過程を見守ったり励ましたり認めたりすることの大切さを実感した。

親子で参加する行事を通して、様々な体験を楽しもう！

◎ 連携の目的（ねらいと内容）

- 親子で参加する行事を通して、幼児が身近な人とのかかわりを持ち、一緒に活動する楽しさや認められるうれしさを感じたり、集団行動のきまりや社会のルールを知ったりできるようにする。
- 保護者が、他の子の様子を見たり集団の中の我が子の様子を知ったりして、保護者同士の交流を図り、関係づくりができるようにする。

親子で参加するお楽しみ行事

7月

<夕方会> 子どもたちが作ったおばけ屋敷で楽しむ。流しそうめんを食べる。

9・11月

<星を見る会> 星座・星についてスライドショーを見る。望遠鏡で星を見る。

実践の展開

電車に乗って水族館へ行こう！ 親子遠足 3月

- ◆ 保護者に親子遠足の目的を伝える。（当日）
 - ・親子で一日楽しむ中で、子どものよいところを見つける・自分の子どもの生活する姿を知る。
 - ・交通のルールを子どもが分かるように伝える ・公共施設でのマナーを子どもに教える。
 - ・保護者同士、友達づくりをする。
- ◆ 水族館では興味をもって他の親子とともに楽しんで“海の生き物”を見ることができるよう、事前に保育者が用意したクイズ形式のカードを配り、3家族を一つのグループとして見学をする。
<親子の様子>

◇ 海の生き物を見ながら・・・

・クラゲのえさやりを見て、「どこから食べるのかな？」「プカプカしてると食べられるのかな」と、興味深く親子で見ている。

・エイの腹を見て、エラが動いている様子から「笑ってるみたいだね」と満面の笑顔の幼児たちを見ている親も、満面の笑顔をしていた。

◇ 昼食時には・・・

・小学校入学が近いことから、初めて入学をする保護者が、すでに上の子が小学校に行っている保護者に、分からないことをいろいろ尋ね、教えてもらっていた。



・ふだん顔を合わせることの少ない外国籍の保護者同士がメールアドレスの交換をしている姿があった。

・幼児たちは、お弁当をうれしそうに食べながら友達と話をしたり、保護者同士の話を聞いたりしていた。

実践における工夫のポイント

- ◆ フルタイムで働く保護者が多く、子どもの送迎で時々顔を合わせたり、保育参観などで少し話したりできる程度である。そこで、夕方や夜の行事を企画することで、ゆったりと過ごし、家族同士のつながりをもてるようにした。(夕方会・星を見る会)
- ◆ 行事に参加できるように年度当初に計画を知らせ、前もって仕事との調整が取れるように配慮した。
- ◆ 保護者に行事ごとの目的を伝え、保護者が目的意識をもって行事に参加することで、幼児と保護者にとって、より有意義な時間を過ごせるように配慮した。
- ◆ 外国籍の幼児が増加しているので、保護者同士の交流の場となるよう、親子遠足の昼食時等には、保育者が間に入りながら関係づくりの橋渡しとなるように心掛けた。

幼児の学びにつながったこと

- ◆ 水族館の遠足では、クイズ形式のカードがあることで、より興味深く海の生き物の様子を見たり気付いたりしたことをグループの友達やその保護者とともに伝え合ったりする楽しさを味わうことができた。
- ◆ 遠足に出かけることで、信号を見て、左右の確認をして横断歩道を渡るなど、交通安全への意識をもつことができた。
- ◆ 自分の親だけでなく、友達の保護者の言動から、公共交通機関でのマナーや、施設の中での過ごし方を知ることができた。
- ◆ 親子でいろいろな行事に参加することで、自分とは違う家族があることを知ることができた。
- ◆ 友達のお母さんやお父さんから声を掛けてもらい、身近な大人への親しみの気持ちが広がっていった。

保護者の学びにつながったこと

- ◆ 親子でいろいろな行事に参加することで、共に感動できる体験ができ、家庭での親子の会話が増えた。
- ◆ 遠足では1日を集団で過ごし、集団の中での自分の子どもの様子を知り、客観的に自分の子どもを見るきっかけになった。
- ◆ 小学校の入学を前に家庭で身に付けさせておくことよいこと、1年生の生活の仕方など、上の子が小学校に行っている親からアドバイスを受けることによって、親としての心構えができた。

卒園式では、クラスの保護者がどの子どもにも「おめでとう」と声を掛けたり、一緒に写真を撮ったりして、共に育ってきた子どもたちの成長と一緒に喜び合いました。

小学校に入学後も、不安なこと、分からないことがあると連絡をし合っているそうです。就学前に関係づくりをしていくことは、その後の子どもにとっても保護者にとっても大切です。



幼稚園・保育所等から小学校へつなぐ「三つの力」チェックシート

＜チェックシートの活用の仕方＞

幼稚園・保育所等と小学校における、幼児・児童の姿や様子について、互いのことをどの程度把握しているか、チェックシートで確かめてみましょう。

幼稚園・保育所等の方は・・・小学校の児童の姿・様子のチェック欄に
 小学校の方は・・・・幼稚園・保育所等の幼児の姿・様子のチェック欄に
 また、それぞれが、アプローチ期やスタート期に指導・配慮していることを参考にして、互いの理解を図りましょう。

幼稚園・保育所等の方へ



小学校の児童の姿・様子にチェックがつかなかった項目はありましたか？

幼児が、小学校に滑らかに移行するには、どうしたらいいのか考えてみましょう。

＜生活する力＞

(例) 壁には様々な掲示物があり、自分に必要な情報を読み取る。(時間割・当番表・学級目標等)



- ・ 幼児が、自分から関心をもって掲示物を見たり、今日の予定などが分かったりできるような環境になっているか。

＜かかわる力＞

(例) 授業では、相手の話が終わってから聞く、話したいことは挙手して指名されてから話すなどの発言のルールがある。また、自分の経験や考えを発表する場面があり、人前で話すことが多くなる。



- ・ 学級の皆で話し合う場がもたれているか。
- ・ 幼児が自分の思いや考えを、人前で話したくなるような雰囲気づくりがなされているか。その際、保育者や友達の話を聞いて内容が理解されているかどうか、保育者は個々について確かめ、把握できているか。

＜学ぶ力＞

(例) 自分の考えを友達や先生に話したり、絵や文字でかいたりする活動が始まる。図画工作生活科・各教科の学習の中で、スケッチしたり、形通りに切り抜いたり、貼り合わせたり、配付物の角を合わせて折ったりするなど、手を使っての細かな作業が多くなる。



- ・ 遊びの中で、自分の考えやイメージを言葉で伝えたり、絵や文字にして表したりすることを楽しんで行っているか。
- ・ 様々な用具を使って、切る、貼る、折るなどの経験をしているか。

小学校の方へ

幼稚園・保育所等の様子にチェックがつかなかった項目はありましたか？

幼稚園・保育所等の実態について、幼稚園・保育所等 幼児の生活する力・様子を「三つの力」で、チェック項目や指導・配慮していることを把握してください。

幼保小の交流活動や幼保小連絡会、就学時健診の際など、入学に向けて少しずつ心掛けていくとよいことを、幼稚園・保育所等や保護者に丁寧に伝えましょう。

チェックシートの表記について 《 記号・枠組み 》

生活する力

P63・P64

- ★ 健康で安全な生活をする
- ◎ 生活に必要な活動を自分で行う
- ◆ 周りの状況を見て見通しをもって行動する

かかわる力

P65・P66

- ★ 自分から周りの人に親しみをもち、かかわろうとする
- ◎ きまりの大切さが分かり、進んで守ろうとする
- ◆ 互いのよさを認め合い友達と協力して活動する

学ぶ力

P67・P68

- ★ 自分の興味・関心をもったことに進んで取り組む
- ◎ 自分の考えを言葉で伝えたり、工夫して表現したりする
- ◆ 遊びの中で文字や数量などの感覚を豊かにする

指導・配慮していること

♥ 特別な支援が必要な子どもについて

生活する力

幼稚園・保育所等 幼児の生活する姿・様子

★	戸外遊びや保育の中で、全身を使って運動する心地よさを味わっている。
★	昼食は保護者による弁当の園や栄養士による給食の園がある。
★	保護者と徒歩や自転車で登降園する園や、スクールバスで登降園する園がある。
★	けがや痛みを伴う身体の異常は、自分から保育者に伝える。
★	園外活動の中で、交通ルールや公共の場所でのルールを身に付けている。
◎	机や椅子は共有で使用し、保育室は広い活動スペースが確保されている。
◎	遊びに必要な遊具や用具を、自分たちで準備したり片付けたりする。
◎	個人専用の持ち物の収納場所は、靴箱やロッカー、数か所のフックなどである。
◎	靴袋・手提げ袋等、使用頻度の低い持ち物は、決められた場所に置いておく。
◎	衣服の着脱は床に座って行い、脱いだ衣服をたたんで机の上に置いたりかごに入れたりする。
◎	ハンカチの代わりにハンドタオル等を保育室内のタオルかけにかけて使う。
◎	給食の配膳は、エプロンや三角巾をつけた当番が行う園もある。
◎	トイレは、幼児が行きたくなったときに自分で行ったり、担任に告げて行ったりする。
◆	登園は9時頃。その後降園するまでチャイム等の合図はなく、活動の区切りは保育者が幼児の興味関心に柔軟に対応しながら行う。
◆	昼食の開始時刻は、11時30分～12時頃である。年長児の昼食時間は30分くらいであるが、食事にかかる時間は個人差が大きい。
◆	連絡事項は、担任から保護者へ直接行うことが多い。

★家庭と連携し、起床や就寝時刻を早め、時刻を守って登園するように働きかけています。

★嫌いな食べ物を少しでも食べられるように、励ましたり、食べることができたときには認めたりしています。

★危険や安全に配慮して自分で注意して行動するように、繰り返し指導しています。

◎手洗い・うがい・用便・傘の扱い・衣服の着脱やたたむこと・靴の履脱・食事のマナー・持ち物の整理・遊具の片付け等が身に付いているか、個々に確認しています。

アプローチ期に
指導・配慮していること



◎家庭と連携し、持ち物は自分で持つ、自分で翌日の持ち物の準備をするように働きかけています。

◆見通しをもって生活できるように一日の予定を知らせたり、時計を見て生活の区切りが分かるように環境を整えたりしています。

◆カレンダーに行事の予定を記入し提示しています。

◆学級で一緒に活動を行う時間、個々で活動する時間を意図的に組み合わせ、気持ちの切替えができるようにしています。

小学校 児童の生活する姿・様子

★	けがの防止やよい姿勢の保持にもつながるよう、体力や体のバランスのとれた動きを高める。
★	食事の量は、食べられる量に合わせて配膳してもらいできるだけ残さず食べるようにする。
★	給食は20分程度で食べられるよう、徐々に慣らしていく。
★	具合の悪い時やけがをしたときは、自分でどこが痛いか、どこでどのようにけがをしたのかを担当や養護教諭に伝える。
◎	教室では一人一人の机と椅子が決められており、黒板の方を向いて学習に取り組む。
◎	学用品を始め、体操着、上履き等、収納場所が決まっており自分で管理する。
◎	机の中は道具箱を引き出し式にし、整理整頓して使う。
◎	ハンカチ、ティッシュは服のポケットに入れるなど、自分で管理して使う。
◎	体操着の着替えは、短時間で着替え、脱いだ服をたたみ、椅子や机の上に整頓しておく。
◎	雨の日は傘の始末をして傘立てに入れる。
◎	給食の準備、片付けは、子どもたちが輪番で受けもつ給食当番が行う。
◎	清掃時間が決まっており、自分たちが使う場所は自分たちで掃除をする。
◆	壁には様々な掲示物があり、自分に必要な情報を読み取る。(時間割・当番表・学級目標等)
◆	登校から下校まで、クラスや学年を単位に集団で活動する。1日5時限の授業を受ける。
◆	チャイムを合図に1時限(45分)続けて学習する。
◆	学習や作業をするときは、時間内に終わるように見通しをもって活動する。
◆	休み時間は5分から10分間で、中休みや昼休みは長めに設定している学校が多い。
◆	休み時間には、次の授業の準備やトイレ等を早くすませる。

★連絡帳や朝の健康観察でその日の健康状態を把握し配慮が必要な子どもを確認しています。

◎学習用具の準備や整理の仕方は、使いやすさを考えさせて気付かせるようにしています。

◎入学当初は、毎日の時間割や持ち物など保護者向けのお便りで知らせています。

◆慣れるまで、45分の枠にとらわれることなく、授業の開始と終了の時刻を柔軟に設定しています。

★給食に慣れるまで、給食を始める時刻を早め、準備の時間や食べる時間を長くしています。また、給食は自分で量を調節し、できるだけ全部食べられるようにしています。



スタート期に
指導・配慮して
いること

◆チャイムが鳴ったり放送が入ったりしたときには自分で判断して行動に移せるように、日頃から話し合ったり確認したりしています。

★入学当初は、下校の際、集合場所まで教師や保護者が付き添い、安全指導をしています。

◎体育は、着替えの仕方について指導し、着替えの時間を十分に確保するようにしています。

◎清掃は、上級生の助けを借りながら、自分たちでできるように、時間をかけて指導しています。

♥特別な支援が必要な子どもについての情報は教職員で共有し、その子に合わせてきめ細かく対応するようにしています。

かかわる力

幼稚園・保育所等 幼児のかかわる姿・様子

★	幼児は担任との信頼関係を基盤に安定した情緒の下で、自己を十分に発揮する。
★	園で幼児がかかわる人は、担任・園長・主任・用務の人（バスの運転手・給食調理員）等である。
★	園行事等では、幼児は年長児として中心になって活動する。
★	幼児は学級内での簡単な当番や係の活動を行っている。
★	園外のような人とかかわる機会を通して地域の人に親しみを感じている。
◎	遊びや生活のルールはある程度理解している。
◎	遊びの中でのトラブルは、保育者が幼児の気持ちを認めたり、相手の気持ちに気付かせたりして幼児同士で解決できるよう援助する。
◎	ルールのある集団遊びを行うが、担任の援助が必要なこともある。
◆	幼児は自分の気持ちを言葉で表したり、相手の気持ちに気付いたりする。
◆	幼児は様々な人とかかわる中で、相手の話を聞こうとする態度や意欲を培っている。
◆	幼児同士で好きな遊びを見付け、遊び方を考え遊びに必要な言葉のやりとりをしながら友達とかかわっている。
◆	幼児は、遊びや生活全般を通して、人とかかわり方、人への信頼感、相手の気持ちを思いやることを学んでいる。

★自分の気持ちを先生や友達に言葉で伝えられるように、機会を捉えて促しています。

★先生や友達、園内外の人とあいさつを交わすように、声をかけたり、保育者自身が態度で示したりしています。

★当番や行事の係など、自分が役に立つという実感を味わえるように配慮しています。

◎遊びや生活の場面でトラブルが起きた時には、子どもの思いを伝え合い、どうすればよいか考えさせるようにしています。

アプローチ期に
指導・配慮
していること



★小中学生、高齢者などと交流をしたり、警察や消防署の人から話を聞いたりして様々な人と触れ合う機会を増やしています。

◆仲間とともに活動をする中で、気持ちをコントロールしたり相手の気持ちを受け入れたりする経験ができるように配慮しています。

◆様々なことを学級やグループで話し合う機会をもつようにしています。

◆行事や係活動、ごっこ遊びや劇遊びなど、目的を明確にして、仲間と力を出し合って取り組み、やり遂げる経験ができるようにしています。

小学校 児童のかかわる姿・様子

★	児童と担任の関係は原則的に学級を単位としているが、児童一人一人は担任に支えられている。
★	休み時間や給食の時間など、担任と話をしたり聞いてもらったりする機会はある。
★	担任や同級生だけでなく、教職員・上級生など自分とかかわる人が多くなる。
★	担任以外の教職員ともコミュニケーションをとれるようになる。
★	様々な場面で名前を呼ばれたら返事をする。
◎	学級内・学校内での約束を守りながら、学校で生活する。
◎	児童同士で活動する時間が増え、自ら善悪の判断や安全・危険の判断をする場面が増えてくる。
◎	全校朝礼や校外学習等では、学級単位で整列・移動し、場面に応じた行動をとる。
◆	自分の経験や考えを発表する場面があり、人前で話すことが多くなる。
◆	隣の席の児童と相談したり教え合ったりして生活する。
◆	学級内の係・当番活動・グループ学習・学年行事・学校行事等、友達と協力して活動する場面が増えてくる。

★担任は、一人一人の子どもの様子に目を配り、気になる子どもには積極的に言葉掛けをするようにしています。

★隣の席の子どもとペアトークをしたりゲームをしたりして、友達と親しくなれるような活動を意図的に取り入れています。

★職員室への入室の仕方を知らせ、子どもが入室する機会をつくり、担任以外の教師とのかわりをもたせるようにしています。

◎学校生活に慣れるまで、基本的な約束事について学ぶ時間を多く設定しています。

スタート期に
指導・配慮して
いること

◎グループで仲良く遊ぶにはどうすればよいか話し合い、遊んだ後に振り返り、楽しく遊ぶことができた気持ちを共有しています。

◆学級の係や清掃活動など、みんなで作業する場面を多く取り入れ、協力することの大切さを実感させるようにしています。

♥友達とのかわりを苦手とする子どもについての情報は教職員で共有し、その子に合わせた支援をするようにしています。

学ぶ力

幼稚園・保育所等 幼児の学ぶ姿・様子

★	身近な自然体験や社会事象、遊びを通して、直接見たり触れたりする経験の中で様々なことに気付いたり、試行錯誤したりしている。
★	飼育や栽培活動を通して様々な生命に触れる体験をしている。
◎	幼児は経験したことや感じたことを保育者に自分なりの言葉で表現する。
◎	集団で話を聞いたり、集団の前で話したりする。
◎	パス、フェルトペン、絵の具などを使ってイメージしたものを絵に描いたり、はさみやのり、テープなどを使って工夫して製作をしたりする。
◎	様々な材料を使って、遊びに必要なものを友達と協力して作る。
◎	誕生会や生活発表会などで友達と一緒に歌ったり簡単な楽器の演奏をしたりする。
◎	楽器遊びの中で、いろいろな楽器の音に触れ、音色の違いに気付いたり、扱い方を体験したりしている。
◎	音楽に合わせて踊ったり、劇遊びで表現を楽しんだり、いろいろな役を分担したりする。
◆	遊びや生活の中で、文字や数字に興味・関心をもって活動する。
◆	絵本や紙芝居等を読んでもらう経験を通して想像力を膨らませる。
◆	絵本の貸出しや保護者による絵本の読み聞かせなどを経験している。

★小動物を飼育したり、植物を栽培したりして愛着を感じたり、成長を喜んだりする経験ができるようにしています。

★子どもが自分なりの目的をもち、実現できるように試したり工夫したり挑戦したりするのを支えるようにしています。

◎子どもが気付いたことや発見したことを受けとめ、感動を共有するようにしています。

◎分からないことは、先生や友達に自分で尋ねることができるようになっています。

◎イメージを生かした表現や、集中力の必要な表現などを製作の中に取り入れています。

◎みんなの前で感じたことを一人で話す機会をもつようにしています。

◎劇遊びなどは、ストーリーやせりふを子どもと共に話し合う機会をもつようにしています。

アプローチ期に
指導・配慮して
いること



◎気持ちを込めて歌ったり、リズムカルに動いたりするのを一緒に楽しむようにしています。

◆お店屋さんごっこやお手紙ごっこなど、文字や数字に触れて遊ぶ機会をつくっています。

◆ロッカーや当番表の名前をひらがなで表示するようにしています。

◆生活や遊びの中で、物の数を数えたり集めたり、量を比べたりして数量の感覚に触れる機会をつくっています。

小学校 児童の学ぶ姿・様子

★	入学後、ほどなくして学習を中心とする生活になり、教科書を使って系統的に学習する。
★	授業では、結果だけでなく、学習に対する意欲・関心や態度が評価される。
★	休み時間に校庭の遊具など、器具を操作して遊ぶことが増える。
★	けがの防止やよい姿勢保持のために、体育や休み時間に楽しく体を動かし、運動能力を高める。
◎	自分の考えを友達や先生に話したり、絵や文字でかいたりする活動が始まる。
◎	担任の話最後まで聞き、発問や指示などを基に学習したり行動したりする。
◎	授業で、話したいことがあるときは、相手の話が終わってから挙手し、指名されてから話すなどの発言のルールがある。
◎	図工・生活など教科の学習の中でスケッチしたり、形通りに切り抜いたり、貼り合わせたり、配布物の角を合わせて丁寧に折ったりするなど、手を使っての細かな作業が多くなる。
◎	伴奏に合わせてリズムよく歌ったり、演奏したりして音楽の表現を楽しむ。
◆	入学当初から、自分の名前を読んだり書いたりする。
◆	数を数えたり、数の大きさを比べたり、数字を書いたりする。

★楽しく学習する上で、学習の決まりが必要なことや守ることの大切さに気付かせるようにしています。

★静かに話を聞くことができたり、意欲的に発表できたりしたときには、しっかり褒めるようにしています。

★植物の栽培では、世話をすることを通して発見したことや気付いたことを表現できるように声を掛け、支援しています。

◎グループで一緒に作業する場面を設定し、友達と相談しながら学習を進めることに少しずつ慣れさせています。



★一人一人の学習の進み具合を見て、声を掛けたり支援したりしています。

◎造形活動では、身近な材料を使い、自由な発想を大切に作り組ませています。

◎音楽では、身体表現をしたり、リズム打ちをしたりして、楽しく歌ったりリズムに乗ったりすることができるように場所や雰囲気配慮しています。

◆ひらがなの学習は、初めて習う子どもを基準にして、一文字ずつ丁寧に指導を進めています。

◆具体物を半具体物に置き換える活動を繰り返し、数の概念を養うようにしています。

◆算数などは、全ての子どもが理解するまで時間をかけて個に応じて指導しています。

愛知県幼児教育研究協議会のあゆみ

年度	経 過	
昭47 48	・協議会の設置 ・「幼児教育の指針」の作成	
49	・協議題 4・5歳児の教育(保育)内容を中心に	(答申)
50 51	・協議題 幼児教育と小学校教育の在り方とその連携	(中間報告) (答申)
52	・協議題 今後における幼稚園と保育所の関係について	(報告)
53 54	・協議題 幼・保の教育(保育)と家庭教育との連携 ・協議題 幼稚園・保育所と家庭との連携	(中間報告) (報告)
55 56	・協議題 幼児教育の充実を目指す指導の在り方	(中間報告) (報告)
57 58	・協議題 幼児教育に関する今日的課題	(中間報告) (報告)
59	・協議題 幼児の生活実態とその問題点	(報告)
60	・協議題 幼稚園・保育所における望ましいしつけの在り方	(報告)
61	・協議題 家庭の教育力回復のために幼児教育機関の果たす役割	(報告)
62	・協議題 幼児教育のための保育者の資質向上の在り方 ・現職教育資料「保育者としてこれだけは」	(報告) (発刊)
63 平元	・協議題 人との関わりをもつ力の育成 〃 ・現職教育資料「人との関わりをもつ力の育成」	(中間報告) (報告) (発刊)
2 3	・協議題 自然との触れ合いや身近な環境との関わり合いについて 〃 ・現職教育資料「自然との触れ合いや身近な環境との関わり合いをもつ力を育てる」	(中間報告) (報告) (発刊)
4 5 6	・協議題 基本的な生活行動を主体的に身に付けるために 〃 〃 ・現職教育資料「基本的な生活行動を主体的に身に付けるために」	(実態調査) (中間報告) (報告) (発刊)
7 8 9	・協議題 一人一人の幼児の特性や発達の課題に応じた教育・保育の在り方 〃 〃 ・現職教育資料「私たちの園にふさわしい教育課程・保育計画」	(実態調査) (中間報告) (報告) (発刊)
10 11 12	・協議題 心豊かな幼児の育成を目指して 〃 〃 ・現職教育資料「保育のポイント Q&A50」	(実態調査) (中間報告) (報告) (発刊)
13 14	・協議題 幼児の心を豊かにする幼稚園・保育所と家庭との連携の在り方	(実態調査) (報告)
15 16	・協議題 子どもたちのすこやかな育ちを支える幼稚園・保育所と小学校の連携の在り方	(実態調査) (報告)
17 18	・協議題 幼児期における心の教育 －「命」を感じる教育を考える－	(実態調査) (報告)
19 20	・協議題 協同的な活動を通して、幼児期の「遊び・学び・育ち」を考える	(実態調査) (報告)
21 22	・協議題 子どもや社会の変化に対応した教育課程・保育課程 －伝え合う力や規範意識の芽生えを培う体験を重視して－	(実態調査) (報告)
23	・協議題 愛知県のこれからの幼児教育の在り方を考える －幼児教育の指針の策定に向けて－	(報告)
24 25	・協議題 小学校教育を見通した幼児期の教育を考える －接続期における教育課程・保育課程の編成に向けて－	(中間報告)

平成24・25年度 愛知県幼児教育研究協議会 委員名簿 (敬称略 順不同)

役 職	氏 名	職 名 (就任当時の職名を記載)	年 度	
会 長	山 口 雅 史	椋山女学園大学教授	24	25
副会長	久 野 弘 幸	愛知教育大学准教授	24	25
委 員	小 宮 克 裕	知多市教育委員会教育長	24	
”	高 松 透	碧南市教育委員会教育長		25
”	金 田 慎 也	名古屋市教育委員会学校教育部指導室長	24	25
”	渡 邊 佐 知 子	名古屋市子ども青少年局保育部保育企画室長	24	
”	加 藤 仁	名古屋市子ども青少年局保育部保育企画室長		25
”	山 田 隆 司	岡崎市こども部保育課長	24	25
”	鈴 木 照 美	愛知県国公立幼稚園長会会長 (名古屋市立第一幼稚園長)	24	25
”	伊 藤 園 子	愛知県私立幼稚園連盟会長 (いとう幼稚園長)	24	25
”	伊 東 世 光	愛知県社会福祉協議会保育部会部会長 (天使保育園長)	24	25
”	竹 内 公 子	名古屋民間保育園連盟副会長 (昭和保育園長)	24	
”	松 本 一 男	名古屋民間保育園連盟副会長 (小鳩幼児園長)		25
”	永 井 清 司	知多市立旭南小学校長	24	
”	永 田 淑 子	半田市立雁宿小学校長		25
”	菱 田 直 也	愛知県国公立幼稚園PTA連絡協議会会長 (名古屋市立第一幼稚園)	24	
”	陸 田 俊 邦	愛知県国公立幼稚園PTA連絡協議会会長 (名古屋市立第一幼稚園)		25
”	浅 井 美 穂	愛知県私立幼稚園PTA連合協議会会長 (希望幼稚園)	24 前期	
”	江 川 真 実 子	愛知県私立幼稚園PTA連合協議会会長 (豊田大和幼稚園)	24 後期	25 前期
”	植 田 垂 弓	愛知県私立幼稚園PTA連合協議会会長 (一宮丹陽幼稚園)		25 後期
”	三 原 真 衣	一宮市立野口保育園保護者の会会長	24	
”	長 谷 川 仁 美	一宮市立今伊勢中保育園保護者の会会長		25
”	松 原 光 彦	愛知県県民生活部学事振興課私学振興室長	24	25
”	尾 崎 亨	愛知県健康福祉部子育て支援課長	24	
”	安 藤 綾 子	愛知県健康福祉部子育て支援課長		25

平成24・25年度 愛知県幼児教育研究協議会 専門部会委員名簿（敬称略 順不同）

氏名	職名	年度	
(専門部会長) 久野弘幸	愛知教育大学准教授	24	25
山田初枝	桜花学園大学講師	24	25
伊藤茂美	名古屋市立二城幼稚園長	24	
平松章予	名古屋市立西山台幼稚園長		25
若子真須美	阿久比町立ほくぶ幼稚園長	24	25
沼田留美子	刈谷市立小垣江幼稚園長	24	25
齋藤善郎	林丘幼稚園理事長	24	25
山田好美	小牧市立北里保育園長	24	25
細田恵美子	西尾市立米津保育園長	24	25
松井美千子	高浜中央保育園長	24	25
右高恭子	瀬戸市立掛川小学校長	24	25
市田幸代	刈谷市立平成小学校長	24	
池田比呂子	安城市立安城北部小学校長		25
青山裕美	愛知県健康福祉部子育て支援課主査	24	25
立川恵理	愛知県教育委員会生涯学習課教育主事	24	
浜野洋行	愛知県教育委員会生涯学習課教育主事		25

平成24・25年度 愛知県幼児教育研究協議会 事務局名簿（敬称略 順不同）

氏名	職名	年度	
岩間博	愛知県教育委員会学習教育部長	24	
笹尾幸夫	愛知県教育委員会学習教育部長		25
稲垣寿	愛知県教育委員会義務教育課長	24	25
木下眞吾	愛知県教育委員会義務教育課主幹	24	
高田和明	愛知県教育委員会義務教育課主幹		25
吉田和通	愛知県教育委員会義務教育課課長補佐	24	25
井上正英	愛知県教育委員会義務教育課課長補佐	24	
加藤博之	愛知県教育委員会義務教育課課長補佐		25
勝田拓真	愛知県教育委員会義務教育課主査	24	
柴田和明	愛知県教育委員会義務教育課主査		25
栗木節子	愛知県教育委員会義務教育課主査	24	25
中村則夫	愛知県教育委員会特別支援教育課主査	24	
久保千聡	愛知県教育委員会特別支援教育課主査		25
山本千種	愛知県教育委員会義務教育課指導主事	24	25
都築純歌	愛知県総合教育センター基本研修室研究指導主事	24	25

平成24・25年度報告

小学校教育を見通した幼児期の教育を考える
—接続期における教育課程・保育課程の編成に向けて—

平成26年3月発行

愛知県幼児教育研究協議会

(事務局)

名古屋市中区三の丸三丁目1-2

愛知県教育委員会義務教育課

電話 052(954)6799 (ダイヤルイン)

(複写印刷可)

愛知県教育委員会義務教育課のホームページ

「愛知県幼児教育研究協議会」にて掲載

<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/gimukyoiku/>

